

広島大学 工学部

広島大学工学部は、広島大学の統合移転の先陣として昭和57年3月に、広島市の東30kmほどに位置する東広島市の新キャンパスに移転し、自然に恵まれた広大なキャンパスの中で、教育、研究を行なっている。

工学部、工学研究科の組織は図1のように構成される。

情報工学専攻は、昭和61年に新設され、第2類と総合科学部の情報関連の教官から成る組織である。

各類は教官組織として大講座制をとり、学生組織は、課程制をとっている。第2類の大講座、課程、教育科目、専攻の関係を図2に示す。

広島大学工学部は、新制大学の第1陣として、博士課程が設置され、それに伴い、基礎工学を重視する大幅な改組を行ない、図2のように、学科制にくらべ、複雑な組織構成をとっているが、ようやく、これらの組織運営が定着してきている。第2類は、半導体、光エレクトロニクスを中心とする物性をはじめとして、電子、情報、システム、経営工学と、ハードからソフトという幅広い学問分野から成る組織であるが、多くの先端技術分野を包含した学問分野をもつため、互いに刺激を受け、研究、教育のポテンシャルが高く、国内外で優れた研究成

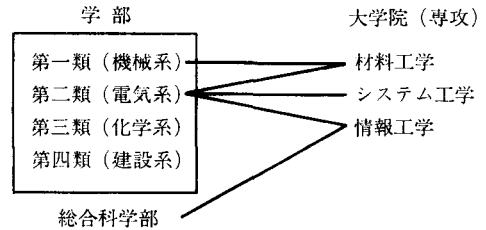


図 1

果をあげており、学生の論文発表等を通じ、お互いの学問分野を知るという機会に恵まれている。

計数管理講座は、旧経営工学科を改組した組織であるから、経営工学、ORの研究、教育を行なっており、図2のように、システム工学課程、経営工学課程の学生を受け入れている。

システム工学という専攻、課程名があるように、システム工学の研究、教育では、ORと同じ方法論が用いられているが、研究の対象は、経営よりむしろ工学を対象とする分野が多い。

ORが、経営と情報を主眼としているように、情報工学専攻のソフトウェア分野の研究、教育は、ORがめざす方向と同じものが多い。

第2類のOR学会員は、筆者の所属する計数管理講座では、筆者のほか、尾崎俊治教授、奈良宏一助教授、山田茂助教授、佐藤泰司助手、錦織昭峰助手、回路・システム講座では、翁長健治教授である。（青木兼一）

課程	大講座	教育科目	専攻
電子物理工学	電子物性工学	プラズマ工学	材料工学
電子工学		半導体工学	
電気工学	回路・システム工学	電子素子工学	システム工学
システム工学		磁気工学	
経営工学		電子制御工学	情報工学
		電気機器工学	
	電力工学		
	電子回路工学		
	計算機工学		
	情報システム		
	情報回路網工学		
	人間工学		
	経営システム工学		
	計数工学		
	生産工学		
	管理工学		

図 2